

令和5年度第1回「防府市農林業政策懇話会」 議事録等

■開催日時・場所

令和5年11月22日（水）午後1時30分から午後3時まで
防府市役所 1号館3階 南北会議室

■次第

- 1 主要事業等に関する情報提供
 - ・第5次防府市総合計画 重点プロジェクトの進捗状況
 - ・「農林業の知と技の拠点」との連携について
 - ・農業公社の移転について
- 2 防府市の農林業の活性化に向けての御意見

■配布資料

	資料名	番号
1	第5次防府市総合計画 重点プロジェクト 農林業分野について	【資料1】
2	農道牟礼小野線整備事業の進捗状況について	【資料2】
3	「農林業の知と技の拠点」との連携について	【資料3】
4	農業公社の移転について	【資料4】

■委員等出席者名簿

敬称略・順不同

種別	氏名	所属／品目	出欠
会長	池田 豊	防府市長	出席
農林業関係団体	石丸 和美	山口県農業協同組合防府とくち統括本部本部長	出席
	戸田岸 巖	山口県中央森林組合 組合長	出席
	藤井 伸昌	防府市農業委員会 会長	出席
農業関係者	岡本 拓実	(株)ファーム大道 代表取締役社長	出席
	池田 英雄	畜産	出席
	安村 真喜	施設野菜	出席
農林業の知と技の拠点	笹井 雅之	山口県農林総合技術センター 企画戦略部 部長	出席
やまぐち農林振興公社	井上 興	担い手・新事業支援部 部長	出席
商工業団体	松田 和彦	防府商工会議所 専務理事	出席
流通関係団体	松原 正範	株式会社丸久 執行役員青果部長	欠席
観光関係団体	中谷 泰	防府観光コンベンション協会 会長	出席
消費者	阿部 幹恵	防府市生活改善実行グループ連絡協議会 会長	出席
公募	熊安 悦子		出席
	五島 淑子		出席

■会議録

1 主要事業等に関する情報提供

- ・第5次防府市総合計画 重点プロジェクトの進捗状況
- ・「農林業の知と技の拠点」との連携について
- ・農業公社の移転について事務局から資料にて説明

2 各委員による意見

- 会長 | 本日は、防府市の農林業に対する思いを言っていたきたい。
- A委員 | 玉ねぎは、JA山口の重点品目であり、今年度、乾燥機と調製施設を整備する。現在、防府市全体で約3.75haだが、令和9年には約6haまで拡大したい。個人農業者では大変なことなので、法人中心で面積を広げていく。6haのうち、5haを（集落営農法人）連合体で作っていくので、JAも支援していきたい。
- B委員 | 今年、農林業の知と技の拠点が出来、農業大学校に土地利用学科が出来た。会社を立ち上げるにあたって、地域を守りたいという気持ちがあり、若い人に投資をしていきたいと思っている。そのため、農大生の学びの場を作っていく、凝縮して教えていきたい。
- 会長 | 農大生の実践の場として、法人のほ場を使えるようにすることは興味深い。
- C委員 | 土地利用学科が開設され、1年目の今年は、生産技術を学び、2年目からは実践が必要との認識。インターンシップで地域の農業法人に一定期間の研修や定期的実践の場を提供してもらい、生産技術プラス経営も学べるようカリキュラムを検討中である。
- D委員 | 飼料の高騰について、昨年が一番高く、高止まりが続いている。配合飼料は、4半期ごとに改定され、国などから助成があるが、粗飼料については、個人負担になる。牛は牧草をよく食べ、1頭当たり1年で1ha食べる。そう考えると私のところは、50ha必要だが、現状確保できない。そのため、ファーム大道にWCSを頼んで作ってもらっており、牛の消化にもいいが、今年の8月に尽きて、それ以降は、外国産飼料を月30万円で購入している。来年は、宇部市の農業法人と山口市の子実コーン協議会と協力し、サイレージを検討しており、うまくいけば8月以降に入ってくるようになる。
現在、借りている農地について、契約が更新されなかった。おそらく太陽光パネルに代わるのだろうが、1ha減ってしまった。前向きに考えて、飼料を作ってくれるところがあれば買って、防府市民の方に牛乳を提供していきたい。

- 会長 | 耕畜連携の中で JA と一緒になって、調整が必要のものがあれば、伺いながら進めていきたい。
- E 委員 | 6 次産業化について、「農林業の知と技の拠点」が出来たのは非常に強みである。また、Y-BASE もあり活用して、作ったものを売っていくことも大切。
6 次産業化は、人手不足の解消に繋がっていくのではないかと。生産者、商工業者が連携していけば、いいものが生まれるのではないかと。
- F 委員 | 生産者が 6 次産業化に取り組んでいくには、今までの常識を捨てなければならない。ある程度覚悟を持って取り組まないと失敗をしてしまう。
- 会長 | おっしゃる通り発想を転換しなければならない。売れる 6 次産業化をしなければならない。
- G 委員 | 防府市には加工所がなく、昨今衛生基準が厳しくなったこともあり、農家のお母さんが作る漬物などが売れなくなり、地元の物がなくなっている。
また、昨年からは防府の高校でコッペパンを使った食品を開発し、販売するという授業をしているが、高校生がレシピを考える際に、防府産の野菜を知らない。これという食材を増やしてほしい。それが自慢になるような防府になってほしい。
- H 委員 | 6 次産業化に関する研修を来年度から防府で開催する。原価の考え方、表示の仕方、HACCP など研修の中に入っているため、開発予定がある方は参加してほしい。横とのつながりもできる。
また、担い手については、来年 1 月にガイダンスをして、確保していく。
- 会長 | 先ほど、G 委員からこれといった農産物がないとの話があったが、JA と一緒に自慢できる農産物を作っていく、売り込んでいく。
- C 委員 | 山口市の宮野にあった林業指導センターも農業大学校に移転・統合され、林業と農業の連携を図っている。
現在、戦後に植林された人工林のスギ、ヒノキが成熟しているため、それらの木を伐って、使って、再び植える取組を推進している。防府市では、林業の見学会・体験会、木育に取り組んでもらっているため、さらに強化してほしい。
- I 委員 | 防府市では、幼児期に積み木、小学校に上がったからは植林体験といふように小さい頃から森に興味を持ってもらうことをしてもらって感謝している。その続きとして、ぜひ公共施設に木材を使ってほしいし、いろいろな施設で使ってほしい。
また、森林所有者への意向調査等を通して、森林の整備に活かしてほしい。

林業指導センターが拠点に来たので、農業大学校ではなく農林大学校にしてほしい。

会長 森林環境譲与税を活用させてもらって、富海駅で木材を使った公共事業をした。

J 委員 施設野菜をする場合、私が就農した7年前にかかった費用の1.5倍必要となっており、これから就農する人に勧められない。売価が下がってきており、青果物はデフレであり、黒字化は厳しい。現在、手探りの状態だが、加工業者と手を組んで、規格外品を渡し、利益を出そうとするが、加工業者も安く売ろうとするので、悪循環に陥っている。農家としては、規格外品を作りたくないの、ジレンマに陥っている。

ICTについて、就農当時はよくわからず始めたが、今では後付けが出来なくなっており後悔している。ICTの導入を進めるのであれば、補助金をつけるか新規就農者へICTの情報を提供してほしい。

地区のため池について、廃止するか維持するか結論が出ない。新規就農する人は必要だろうし、防災上必要だろうが、決壊する危険もある。

会長 新規就農対策については、拠点も来たので一緒に考えていく。

ため池については、一般論になるが、使わないため池は、国の制度を活用して廃止する。一方、現状のままでは危ないが、農家が使うため池は、整備をしてこれから安全に使えるようにする。ため池の廃止や改修については、一つ一つ対応していく。

K 委員 農家の方と話す、田を持っているだけで赤字と言われる。明るい農村にするため、高齢で機械が使えない方に、作物を作ることを条件に、無料耕耘券や無料草刈り券を配り、耕耘や草刈りを元気な農家にしてもらい、耕耘をした農家は市役所からお金をもらうということを提案したい。

また、作物のブランド化については、サフランを栽培しているが、裏作としてお勧めしたい。

会長 無料耕耘券や草刈り券は担い手が減っていく中での一つのアイデアと思う。

L 委員 小中学生に配布したクリアファイル（農産物カレンダー・マップ記載）について、子どもだけではなく、大人にも知ってもらうため、インターネットで注文できるようにしたらどうか？

耕作放棄地対策につながると思うが、地元のをみんなが食べる。地元でできているものの歴史、文化、農業の知識を持ちながら、食べる教育が大事だと思う。

農業の生産現場を知らない世代が多くなっている。大学生などこれから親になっていく若い人たちに、それも防府市民に限らず、山口県民、広く日本を対象とした、収穫体験などの機会があったらいいと思う。

会長

クリアファイルについては、大人にも知ってもらいたい。

耕作放棄地対策については、農業公社活用の方法などを考えている。

若い人の収穫体験については、拠点と連携しながら、市民、県民、特に子どもの時から収穫体験をしてもらう。そういった意味では、防府では子どもの植林体験もあり、小さい内から体験することは大切。しっかりやっていきたいと思う。

M委員

農家の高齢化、担い手不足が進む中で、担い手の確保が最大の課題である。防府市は稲作中心だが、水田の耕作面積は約800haである。現在、地域計画の作成にあたりアンケートをしているが、将来の後継者がいて、規模拡大をする農家は30名くらいであり、今後、800haを30名で農地を守っていくようになる。800haから収穫できる米だけでは、防府市民全員を賄えない。

大規模農家、認定農家、集落営農法人に規模拡大をお願いするが限界であり、外から新しい農業者を呼んでくるしかない。

地域おこし協力隊を農業公社で受け入れ、農地を保全し、担い手が現れば、保全管理していた農地を渡すなど、新たな動きがないと、現状の農業公社では役割が果たせない。

拠点近くに移転し、拠点と連携していきたい。

会長

担い手確保が大きな課題である。防府市に農業公社がある強み、そして拠点を活用し、今後防府から新たな形の担い手対策、耕作放棄地対策をして、前に進めていく。

閉会